

項目	内容
名称	ツバキ、ヤブツバキ [英]Common Camellia [学名]Camellia japonica L.
概要	<p>ツバキは本州から九州、朝鮮半島に分布する常緑高木。種子から採取されたツバキ油は香りがよく、食用として利用されるほか、頭髮油や軟膏基剤にも用いられている。花や葉を食用または茶として利用する場合もある。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子、葉、花：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。 <p>■ 日本薬局方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツバキ油が収載されている。 <p>■ 食品添加物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然香料基原物質リスト ツバキ（カメリア）が収載されている。
成分の特性・品質	<p>主な成分・性質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイコシアニジン (29)、タンニン類 (101) (PMID:7923462)、トリテルペノイド類 (PMID:20045980)、フラボノール配糖体 (PMID:16926516) などを含

む。

・種子は35~45%程度の油を含む。主成分はオレイン酸で、他にパルミチン酸、リノール酸などを含む (102)。

分析法

・葉に含まれるタンニン類 (101) ([PMID:7923462](#)) およびフラボノール配糖体 ([PMID:16926516](#)) をNMRにて同定した報告がある。

・葉に含まれるカテキン類をGC-MSにて同定、半定量した報告がある (104)。

・油に含まれる脂肪酸をNMRにて同定した報告がある ([PMID:22664463](#))。

・幹樹皮中のトリテルペノイド類をNMRにて同定した報告がある

([PMID:20045980](#))。

・種子油を抽出した残渣から抽出・乾燥したツバキ種子抽出物に含まれるカメラリアサポニンB2、カメラリアサポニンC2をHPLC-ESI-TOF-SIMSで定量した報告がある (2021182656)。

有効性

循環器・
呼吸器

RCT : 国内

【機能性表示食品】冷えを感じている健康な成人24名 (20~64歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、ツバキ種子搾油残渣温水抽出物300 mg (カメラリアサポニンB2 9 mg含有) を2週間摂取させたところ、15℃冷水、1分間の左手冷却負荷試験において、冷却負荷後30分の表面温度回復の改善が認められた (2021182656)。

消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

糖尿病・
内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

脳・神経・
感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

免疫・がん・
炎症

調べた文献の中に見当たらない。

骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

肥満

調べた文献の中に見当たらない。

その他

調べた文献の中に見当たらない。

ヒ
ト
で
の
評
価

参考文献

- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
- (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
- (101) Chem Pharm Bull. 1991;39(4);876-80.
- (102) 日本食品大事典 医歯薬出版
- (103) 日本食品科学工学会誌 . 2008;55(8);379-82.
[\(PMID:22664463\) Molecules. 2012 Jun 4;17\(6\):6716-27.](#)
[\(PMID:20045980\) Chem Pharm Bull. 2010 Jan;58\(1\):121-4.](#)
[\(PMID:16926516\) Biosci Biotechnol Biochem. 2006 Aug;70\(8\):1995-8.](#)
[\(PMID:7923462\) Chem Pharm Bull. 1994 Jul;42\(7\):1399-409.](#)
- (104) 山形大学紀要 (農学). 2004;14(4):211-26.
(2021182656) 薬理と治療. 2020;48(8):1429-35.